



【活動データ】

場所: 千葉県君津市 (株)新日鉄住金 君津製鉄所
日時: 2018年7月27日(金) 参加学年: 未来創生塾2年 46名

新日鉄住金 君津工場見学 鉄の凄さ学ぶ

今回は、群大理工学部から桐生市バスで東京湾アクアライン海ほたるを經由して、君津へ向かった。その日は台風12号の影響があるかと思われたが、運良く雨に降られることもなく見学することができた。

新日鉄住金 君津製鉄所の面積は、1020万 km^2 あって、これは東京ドーム220個分、東京ディズニーランド20個分の広さだ。その製鉄所内には約20棟の工場が並んでおり、主に6つの工程に分かれている。今回は、製鉄所で働く方々による鉄の歴史や、工場の説明などの後に「高炉」と「熱延工場」を見学した。見学前には、線路や道路の看板などの設備があり、本物の町のような工場だった。

高炉は、約100メートルの高さがある建物で、鉄の原料の焼結鉱とコークスを溶かして、ドロドロの「銑鉄」というものにする工場だ。高炉を外から見ると見上げるほど高く、上から煙が出ていてパイプも沢山並んでいた。また、2番目に見学した熱延工場は、1200 $^{\circ}\text{C}$ の金属のかたまりを冷ましながらかたく延ばして巻き取る工程を行っている。工場の中では、ローラーコースターのような機械で金属のかたまりを動かして、圧縮していた。見学当日は30 $^{\circ}\text{C}$ ほどの気温だったが、工場内は外の空気が涼しいと思えるほど暑かった。今回の工場見学を終えて、未来創生塾2年大橋さん親子は、「鉄ができるまでの工程を見て、すごいと思った。地球の3分の1が鉄であることや鉄が環境にやさしいことを知り、もっと鉄について注目すべき」「鉄は、冷たくてかたいイメージだったけど、赤くてドロドロの鉄を見てとても驚いた。すごかった。」と話した。



煙を上げる高炉(写真右上)を見上げる塾生たち



← 熱く溶けた銑鉄を運ぶ
トーピードカー

質問をする塾生 →

